

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7 年 12 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700103		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホーム宮内温泉ひまわり		
所在地	廿日市市宮内字佐原田4215-1 (電話) 0829-30-6071		
自己評価作成日	令和7年10月7日	評価結果市町受理日	令和8年1月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.mivauchi.or.jp/im/ghmo/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人福祉キャリアセンター
所在地	広島市中区吉島東一丁目22番2号
訪問調査日	令和7年11月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>毎月一回、専門職による体操教室を行っています。小規模多機能ホームとの複合施設の為、合同で夏祭りなど行事を行い利用者同士の交流を図りながら認知症の進行を防ぐよう努力しています。また、デイサービスセンターで開催されている認知症カフェなど法人内で行われている行事のお誘いがある時は、できる限り参加して頂き、地域の公民館活動にも参加して外出の機会を設けています。職員同士も、当事業所の「安心して笑顔のある日々を過ごして頂きます」を毎朝の申し送り前に唱和し、色々な場面で助け合うよう心掛けています。そして、お風呂は温泉成分が含まれているので、心身ともにリラックスして入っていただけています。また、皆さんと一緒にテラスで花を植えたり、プランターで育てた野菜を収穫して日々の食事で美味しく頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利便性の良い県道に面した商業地域に母体となる病院があり、同敷地内にサービス付き高齢者向け住宅やデイサービス、老人保健施設、同一建物内に小規模多機能ホームがある。法人は医療、介護、福祉の事業所を多数運営しており、年1回開催される「健康フェア」や毎月の認知症カフェなどで地域の方々との交流も盛んに行っている。また、事業所間では相互に研修を行い、研鑽に努めている。施設は日当たりも良く、テラスには温泉成分の含まれた地下水を利用しての足湯場も設置されている。施設名の由来となっている「宮内温泉」の入浴は入居者の楽しみとなっている。食事はすべて手作りで、庭で採れた野菜や果物が食卓に並ぶこともあり、季節感のあるアットホームな暮らしが提供されている。</p>
--

自己評価	外部評価		自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月1回の法人全体朝礼時に医療法人みやうちの理念を唱和している。当ホームの理念を作成しており、朝の申し送り時に唱和して実践できるよう繋げている。	法人の基本理念の他、基本方針を4つ掲げ、また年2回のサービス向上委員会で事業所の目標を職員が提案している。それぞれフロアや目につく所に掲示してあり、朝の申し送りの際に唱和し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方や入居者様のご家族等がボランティアに来てくださったり、地域の行事へ参加させていただいたり、地域のスーパーへ買い物に行くなど地域の方との交流に努めている。 地域の農家でお米を購入しており、できた野菜をいただくこともある。	毎月1回、鍼灸師が訪問し、体操教室を開催している。法人内のイベントには地域の方々とともに参加する等、交流の場が提供されている。町内会に入っており、職員は清掃活動にも積極的に参加し、近隣とは円滑な関係が築けている。直近では来月に開催されるクリスマス会に近隣の方の参加予定がある。	町内会に入会し、地域の催しや活動にも積極的に参加することで、隣家のクリスマス会の参加が予定される等、地域交流の成果が現れている。運営推進会議に消防や警察の参加の呼びかけを行う予定もあり、ぜひ実現を期待したい。今後もグループホームでの催しに地域住民が参加出来るよう情報の発信を行い、さらなる交流を深めるよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人で年1回「健康フェア」を開催しており、また、月に1回認知症カフェを開催するなどして地域の方と交流をしている。 運営推進会議にご家族や民生委員の方等に参加いただき、介護や認知症、在宅生活について相談対応が可能な旨を伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の民生委員や地域包括支援センター、高齢介護課の方にも参加いただき、入居者様やご家族も交えて行事などの報告、意見交換をすることでサービスの向上に努めている。	運営推進会議には民生委員、地域包括支援センター職員、入居者家族の他、市の高齢介護課の職員も参加している。参加されなかった家族には郵送で内容を報告している。議事録は、日頃の様子を写真に掲載する等、読みやすく興味を持って読んでいただけるような工夫がされている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加いただいて活動報告や意見交換をしたり、必要時には市役所の窓口へ訪問するようにしている。 アンケートや協力依頼があった時には積極的に対応している。	市の担当者が毎回の運営推進会議に参加されていることで、常に円滑な情報共有が出来ている。また、同市内の他グループホームとの共同の交流会も行っており、情報交換が盛んに行われている。必要時には直接市に出向き、アドバイスを受ける等関係は良好である。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関にはセンサーチャイムを設置しており、日中は鍵をかけることなく対応している。年2回以上の身体拘束の研修会を開催し、法人の会議で各施設からの報告、協議をするなどして身体拘束をないケアの実践に取り組んでいる。</p>	<p>年2回以上の研修会を開催している。法人内での報告を協議し、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠せず、センサーチャイムを設置し、職員の見守りや声かけで対応しており、離脱は発生していない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内研修で虐待の研修を入れており、外部研修に参加した職員はその内容を報告するなどし、職員全体で意識するように努めている。また、毎月法人の会議で各施設から報告、協議を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在成年後見制度を利用されている方がいる。必要な方には制度の内容や利用に向けての支援をできる体制を設けている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>新規入居時に約款や重要事項説明書等についてわかりやすく説明し、わからないことがあればいつでも問い合わせを頂ける無縁伝え、相談窓口についても説明しており、家族とは電話だけでなくショートメールでもやり取りをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議やケアプラン説明の時、面会時など、日頃からご家族へ声かけをするよう努めている。ホームの玄関にご意見箱を設置している。</p>	<p>家族には面会や運営推進会議時に意見を把握し、利用者の状況に応じた支援を提供している。会えなかった家族には議事録を郵送している。日頃の様子の写真を載せ、分かりやすく読みやすい議事録を作る工夫に努めている。担当職員は家族への報告も頻回で、日頃から話しやすい関係が出来ており、迅速な対応が可能になっている。</p>	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>法人の会議がある。朝礼や終礼、日々のカンファレンスなどで職員の意見を聞く機会があり、その場で意見交換をしている。</p> <p>年2回の人事考課後、管理者と職員の面談の機会を設けている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、関係は良好である。法人の会議などで他事業所との職員間の交流も多く、情報の共有も盛んで意見が反映されやすい。問題点への提案が受けられるなど、改善に役立つ環境が整っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課制度があり、年2回の考課後には面接の機会を設けている。職員の努力や実績、勤務状況について評価を行い、フィードバックを実施することで、向上心を持ちながら業務にあたり、法人全体のレベルアップができるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人全体でeラーニング研修を実施しており、決めた内容以外のものでも自由に視聴可能。また、院外での研修に参加した職員からの報告勉強会を開いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>2カ月に1回、法人内のグループホームでホーム長会議を実施しており、報告や連絡、情報交換を行うことで質の向上を図っている。</p> <p>同市内のグループホームが集まる連絡会にも参加した。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご本人の生活歴や最近のご様子、趣味や日々の活動状況などについてケアマネからの情報提供や聞き取りなどで把握し、職員全体で共有し、入居後のコミュニケーションを大切にしている。ご様子や発語などに耳を傾け、安心して過ごしていただけるような関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談時にご自宅での生活状況や心配なこと、不案内思っていること、要望などを機器おとり、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時に聞いた不安や要望をカンファレンスで職員間で共有し、それを基にした暫定ケアプランを作成して機能訓練も取り入れ、今必要としている支援を提供できるよう努めている。要望に合わせて訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージなども利用いただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ひとりひとりの個性をしっかりとらえ、お膳拭き、掃除、洗濯たたみなどを入居者様と職員が一緒に行っている。日常的にコミュニケーションをとりながら信頼関係の構築を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話により日頃の様子をご家族へ伝えたり、運営推進会議の報告により活動について発信している。そういった際にご家族の希望などを聞き、それをケアプランに反映している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時折近所に住んでいた方の面会がある。お孫様やひ孫様の面会時はとても喜ばれており、笑顔も多くみられている。ご家族へは入居前に生活されていた自宅への外出なども働きかけており、住み慣れた地域との関りを持ち続けていただけるようにしている。	面会の制限はなく、外出や外泊も可能で、これまでの馴染みの関係性の継続的な支援が行われている。近隣の顔なじみの方の訪問もあり、利用者は喜ばれている。また、家族との聞き取りもしっかりと行い、面会の可否も職員が把握し、対応の配慮も行っている。	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常の洗濯物たたみや塗り絵などのレクなど他の方と何かをする機会をもうけ、職員も一緒にしながら支援をしている。職員は利用者様同士で話をされるような関わり方ができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで契約が終了してもご本人様の様子を職員間で話をして共有したり、ご家族からの相談にも応じたりしている。ご家族にお会いした際には状況などについて聞いたりしている。退居後にご家族がボランティアで来てくださったり、他の方を紹介してくださることもあった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向とご家族の意向にしっかりと向き合い、居心地の良い場を作れるよう検討している。	入居時に聞き取った生活歴や本人の希望や家族の不安等に加え、日頃の関わり中での会話や表情からそれぞれの意向の把握するよう努めている。意思疎通が困難になった利用者にもしっかりと傾聴し寄り添うことで、今現在の思いを汲み取ることが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談で生活歴や日常生活の内容、趣味、趣向などについて聞き取りをしており、それを職員間で共有している。入居後の普段の会話からも好きなことや、これまでの生活について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックを行っており、体調不良時にも実施することで、体調の変化や歩行状態、排泄、心身状況の把握に努めている。日々の生活の様子を観察したり、リハビリでの関わりなどで有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価		自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時にはご本人やご家族の意向の把握に努め、それをもとに個別性の高いプランになるよう務めている。3カ月毎に見直しをし、新プランになる時にはしっかりとモニタリングを行い、適した評価や改善点を取り入れたプランを作成できるよう務めている。</p>	<p>利用者ごとに担当者を決めており、日々変化する利用者の状況を計画担当者や家族にも細かく報告する事が出来ている。定期的なモニタリングで見直しも行い、自立支援に添った最適なプラン作成が出来ている。更新時には必ず家族へ面会を促し、プランの承諾を得ている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに沿って日々の個別記録を記入している。日頃から職員間で意見交換をしながらケアを実践している。</p>			
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人のADLや意向に合わせて訪問美容などのサービスを取り入れたり、機能訓練を取り入れて支援している。</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>篠笛の演奏会で楽しんでいただいたり、講師を招いての体操教室などを開催している。ボランティアの方に来所していただき、入居者様がホームで楽しく過ごしていただけるよう勤めている。</p>			
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居説明時にかかりつけ医を含め、受診についてどうするか相談をしている。入居後は体調の変化に応じて臨機応変に対応している。変化があった際にはご家族にも連絡し、早めの受診を心掛けている。</p>	<p>契約時、利用前のかかりつけ医に継続受診も可能と説明しているが、夜間や急変時の対応が迅速で入院も出来る事から、全ての利用者は同敷地内の法人系列病院を主治医とし、月1回の定期受診を行っている。専門医の受診は家族の協力を依頼している。事業所在中の看護師はもとより、法人系列の外来看護師やリハビリ等の専門職、月1回の訪問歯科医から、嚥下状態や歩行状態等、総合的な健康管理のアドバイスや支援を受けている。</p>		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日バイタル測定を行い、体調不良が無いか確認し、様子がおかしい場合などは看護職員に報告相談している。協力医療機関の外来とも連携を行い、適切に受診できるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際にはホームでの生活状況について書面で病院へ伝えている。協力医療機関の外来や相談員との情報交換は随時行っている。退院前には入院先の病院から連絡をもらい、受け入れ態勢を整えている。また、退院後の訪問指導も受け入れている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した時や終末期には医師が状態説明を行い、当事業所からも対応可能な処置などについて説明。同意を得たうえで状態の変化に応じて医療機関と情報共有を行いながら支援をしている。</p>	<p>事業所として「看取り」をする方針がある。重度化に際しての対応は、状況に応じて本人や家族にその都度意向を確認している。系列病院から状態に応じた指示があり、職員全体で情報を共有し、チームで支援を行い、安心した医療が提供出来る体制が整っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、職員間で情報を共有している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>月に1回災害を想定した訓練を入居者様も参加して行い、内容の検証をしている。法人として災害時の協定を地域と結んでいる。</p>	<p>月1回、火災を想定した訓練を利用者と職員で行っている。消防署から「水消火器」を借用し、実際に使用するなど災害時に慌てないよう実践的な訓練を行っている。事業所の立地は同敷地内に病院や施設があり、安全な場所も敷地も広い為、地域の避難拠点となっている。事業所内には米や水、災害用非常食の備蓄が確保されている。系列病院におむつや衛生用品等の備蓄があり、必要時の対応が可能となっている。</p>	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別性を重視し、自由に生活して頂き、自室におられる方には定期的に訪室して見守りや声かけをしている。排泄時の介助については声かけの声の大きさに気を付ける等、プライバシーを意識した介護を心掛けている。敬意を持って接するよう、職員同士が声を掛け合って意識している。	本人への呼びかけ方は家族の承諾を受け、本人の意向に沿った対応を行っている。声をかける際も、利用者の状態や状況に応じて、声の大きさやタイミングを考慮し、尊厳を尊重し羞恥心に配慮した介助を行うよう、職員は常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が自己決定できるよう、その方の状態に合わせた声かけをするよう努めている。状態に応じて「はい」「いいえ」で答えられるようなわかりやすい声かけをしている。誕生日の時には希望の食事や出かけた場所を伺ったりし、できる限り思いに沿えるようにしている。自己決定が難しい方については、生活歴や過ごしてこられた環境などから推測し、できる限り意向に沿った支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や表情、様子を見ながら希望に添えるよう声かけをするようにしている。無理なく本人のペースに沿って支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着る服を選んでいただいたり、訪問理美容をお願いしており、パーマや毛染めなども楽しんでいただけるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事はホームで手作りをしており、四季折々の食材を取り入れるよう努めている。ホームで取れた野菜や近隣の方からいただいた野菜を入居者様と一緒に下ごしらえして調理をしたり、皆さんに食べたいものを聞いてメニューを決めることもある。配膳や下膳、机拭き等もしていただいている。誕生日には希望のメニューを伺い、提供している。四季折々の行事の際にはそれに合わせて行事食を提供している。	職員が1週間分のメインの献立を作り、副菜は当日担当者が決め、全て手作りで提供している。利用者毎に「誕生日会」があり、その日のメニューに好物を加える計らいがある。お彼岸には一緒におはぎを作っている。日常では下膳やテーブル拭き、野菜の下ごしらえ等、出来る作業と一緒にしながら「お正月は何を作りましょうか？」と季節を意識した会話を弾ませている。利用者の状況に応じ、テーブルの上に台を乗せ高さを調整したり、専門職から嚙下状態を見てもらい食事形態の指示を受ける等、食事を楽しんで頂けるような支援を行っている。	

自己評価	外部評価		自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者様の食事は毎食記録をしており、3食の時に加えて10時、15時にはお茶やコーヒー等を提供。様子を見ながら適宜水分の提供を行っている。 食事のメニューは栄養バランスを考えて毎週考えており、個人に合わせた形態で提供している。 入居者様の状態によって、協力医療機関の管理栄養士に相談して食事の提供を行ったりもしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをし、口腔ケアを実施している。自分で歯を磨くことが難しい方に対しては、職員が仕上げなどを行っている。定期的に歯科医師が来所して、口腔ケアの指示や指導を職員に対して行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員が入居者の排泄パターンを記録している。食事前後や個人の排泄パターンによって声かけを行い、トイレ誘導を行っている。夜間は紙オムツを使用される方についても日中は出来る限りトイレへ行っていただき、排泄できるよう支援している。	排泄表を利用し、利用者の排泄パターンを把握している。介助を要する方には間隔を見ながら声掛け誘導を行っている。歩行不安定で夜間はポータブルトイレを使用する利用者や、夜間はおむつを使用する方でも、日中はトイレに誘導する等、「排泄をトイレで行う」自立支援をチームで取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者様の身体の状態に応じて水分を積極的に摂っていただくよう働きかけたり、便秘改善のため牛乳や食物繊維が多く含まれているものを食べていただいている。また、体操や運動などで腸の動きを活発化し、便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の頻度はひとりひとりの生活ペースに合わせて提供しており、拒否のある方には無理強いせず別の日におすすめている。シャワーチェアなどを使用し、その方に合ったスタイルで無理なく入浴いただけるよう支援している。	週2回～3回の入浴を実施している。事業所名の名称が「宮内温泉ひまわり」にあるように、温泉成分が含まれた地下水(冷泉)を汲み上げ、心身共にリラックスした入浴が提供されている。入浴を嫌がる利用者には「温泉ですよ」の言葉がけで功を奏した事例もある。冬になると近隣から柚子の差し入れがあり、湯船に浮かべる等で季節を感じる工夫も行われている。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ひとりひとりの様子や生活のペースにより昼寝が必要な方には休んでいただけるよう声かけをしている。良質な睡眠をとっていただけるよう、室温や照明、衣類などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個人の薬表を作成し、目的、副作用、用法などすぐに確認できる場所に置いて把握している。服薬後は歩行状態、排尿の有無、睡眠状態の変化などを記録し、それを受診時に医師に伝えるなどしている。居宅療養管理指導で薬剤師による管理を実施しており、適切な薬の管理ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人やご家族にこれまでの生活歴や趣味、好みなどを聞いて、それに基づいて職員が関わるようにしている。日常的に洗濯ものたたみやお膳拭き、掃除などの役割を持っていただいたり、塗り絵や編み物など、それぞれの方の趣味や好きなことをしていただき、日々楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	気候が良い時にはテラスに出たりして日光浴や外気浴をしていただいたり、外でお茶を飲んでいただいたりしている。また、植えている野菜や花の世話をいただいたり、職員と散歩にも出かけたりしている。ご家族が来られた際には外出の働きかけをしている。当施設でもドライブや外食などを企画し、楽しんでいただけるよう努めている。	庭の畑に玉ねぎや豆を植え、野菜作りに不慣れな職員も利用者に指導を受けながら楽しく栽培をしている。みかんやキンカンの苗もあり、今年は3個実ったみかんの収穫を利用者、職員共に待ち遠しく思っている。裏山の紅葉を眺めながら敷地内を散歩したり、家族から頂いたメダカを覗いたり、ゆったりとした時間を過ごしている。桜や紅葉の時期にはドライブを実施している。利用者全員が浴衣を着て隣施設と合同で夏祭りを開催したり、法人内のイベントの他、色々な企画が提供されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は現金を所持されている方はおられない。希望される方がいれば持たせていただき、買い物などの際には支援させていただく。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様やご家族より希望があれば電話や手紙の取次ぎを行っている。また、個人で携帯電話を持っている方もおられ、ご家族などと連絡を取り合っている。手紙を書かれる方は現在おられないが届く方はおられ、届くの楽しみにされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日洗面台や部屋を掃除し、各部屋の室温にも気を配って空調の調整をするなどし、快適に過ごしていただけるように努めている。玄関やリビング、居室に入居者様や職員が作成した作品を飾ったりし、季節を感じていただいたりしている。	施設内は彩光がよく、廊下も広く移動がしやすい。館内は整理整頓されて清潔に保たれている。玄関やリビング、壁面等に季節ごとの装飾が多く施されている。主に職員がパーツを作り、利用者と一緒に会話を楽しみながら作り上げている。一緒にフロアや自室に飾ることで季節を感じて頂けるよう、施設内の演出に工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビ、新聞や雑誌などを置いており、入居者様それぞれが各々時間を過ごしていただけるようにしている。一つのテーブルにたくさんの方に座っていただき、交流を持てるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には自宅で使っていた家具を置いたり、写真を飾っていたり、なじみの物を置いたりして、なるべく自宅に近づけるようにしている。ご家族の写真を置かれている方もおり、それを見ながら話をしたりもしている。職員も一緒に部屋の整理整頓をして、快適に過ごしていただけるようにしている。	利用者の希望に応じて家具や馴染みの物を自由に持ち込み、快適に過ごせるよう住み慣れた環境に近づけている。自身の趣味の作品やレクリエーションで作った作品、家族写真等を飾り、自分なりの空間を楽しむ事が出来ている。居室に仏壇が置いてあり、毎朝手を合わせる事で心穏やかに過ごせている利用者の様子も伺えた。個々の好みに応じた心地よい空間を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置して転倒予防とともに移動しやすい環境づくりをしている。入居者様の残存機能を把握して大切に、無理のない範囲でできることはご自身でやっていただいたり、できないところは遠慮なく声をかけてもらい職員と一緒にしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月1回の法人全体朝礼時に医療法人みやうちの理念を唱和している。当ホームの理念を作成しており、朝の申し送り時に唱和して実践できるよう繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方や入居者様のご家族等がボランティアに来てくださったり、地域の行事へ参加させていただいたり、地域のスーパーへ買い物に行くなど地域の方との交流に努めている。 地域の農家でお米を購入しており、できた野菜をいただくこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人で年1回「健康フェア」を開催しており、また、月に1回認知症カフェを開催するなどして地域の方と交流をしている。 運営推進会議にご家族や民生委員の方等に参加いただき、介護や認知症、在宅生活について相談対応が可能な旨を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の民生委員や地域包括支援センター、高齢介護課の方にも参加いただき、入居者様やご家族も交えて行事などの報告、意見交換をすることでサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加いただいて活動報告や意見交換をしたり、必要時には市役所の窓口に訪問するようにしている。 アンケートや協力依頼があった時には積極的に対応している。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関にはセンサーチャイムを設置しており、日中は鍵をかけることなく対応している。年2回以上の身体拘束の研修会を開催し、法人の会議で各施設からの報告、協議をするなどして身体拘束をないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内研修で虐待の研修を入れており、外部研修に参加した職員はその内容を報告するなどし、職員全体で意識するように努めている。また、毎月法人の会議で各施設から報告、協議を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見制度を利用されている方がいる。必要な方には制度の内容や利用に向けての支援をできる体制を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	新規入居時に約款や重要事項説明書等についてわかりやすく説明し、わからないことがあればいつでも問い合わせを頂ける無縁伝え、相談窓口についても説明しており、家族とは電話だけでなくショートメールでもやり取りをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議やケアプラン説明の時、面会時など、日頃からご家族へ声かけをするよう努めている。ホームの玄関にご意見箱を設置している。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人の会議がある。朝礼や終礼、日々のカンファレンスなどで職員の意見を聞く機会があり、その場で意見交換をしている。 年2回の人事考課後、管理者と職員の面談の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度があり、年2回の考課後には面接の機会を設けている。職員の努力や実績、勤務状況について評価を行い、フィードバックを実施することで、向上心を持ちながら業務にあたり、法人全体のレベルアップができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体でeラーニング研修を実施しており、決めた内容以外のものでも自由に視聴可能。また、院外での研修に参加した職員からの報告勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2カ月に1回、法人内のグループホームでホーム長会議を実施しており、報告や連絡、情報交換を行うことで質の向上を図っている。 同市内のグループホームが集まる連絡会にも参加した。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の生活歴や最近のご様子、趣味や日々の活動状況などについてケアマネからの情報提供や聞き取りなどで把握し、職員全体で共有し、入居後のコミュニケーションを大切にしている。ご様子や発語などに耳を傾け、安心して過ごしていただけるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談時にご自宅での生活状況や心配なこと、不案内思っていること、要望などを機器おとり、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時に聞いた不安や要望をカンファレンスで職員間で共有し、それを基にした暫定ケアプランを作成して機能訓練も取り入れ、今必要としている支援を提供できるよう努めている。要望に合わせて訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージなども利用いただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ひとりひとりの個性をしっかりとらえ、お膳拭き、掃除、洗濯たたみなどを入居者様と職員が一緒に行っている。日常的にコミュニケーションをとりながら信頼関係の構築を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話により日頃の様子をご家族へ伝えたり、運営推進会議の報告により活動について発信している。そういった際にご家族の希望などを聞き、それをケアプランに反映している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時折近所に住んでいた方の面会がある。お孫様やひ孫様の面会時はとても喜ばれており、笑顔も多くみられている。ご家族へは入居前に生活されていた自宅への外出なども働きかけており、住み慣れた地域との関りを持ち続けていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常の洗濯物たたみや塗り絵などのレクなど他の方と何かをする機会をもうけ、職員も一緒にしながら支援をしている。職員は利用者様同士で話をされるような関わり方ができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで契約が終了してもご本人様の様子を職員間で話をして共有したり、ご家族からの相談にも応じたりしている。ご家族にお会いした際には状況などについて聞いたりしている。退居後にご家族がボランティアで来てくださったり、他の方を紹介してくださることもあった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向とご家族の意向にしっかりと向き合い、居心地の良い場を作れるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談で生活歴や日常生活の内容、趣味、趣向などについて聞き取りをしており、それを職員間で共有している。入居後の普段の会話からも好きなことや、これまでの生活について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェックを行っており、体調不良時にも実施することで、体調の変化や歩行状態、排泄、心身状態の把握に努めている。日々の生活の様子を観察したり、リハビリでの関わりなどで有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時にはご本人やご家族の意向の把握に努め、それをもとに個別性の高いプランになるよう務めている。3カ月毎に見直しをし、新プランになる時にはしっかりとモニタリングを行い、適した評価や改善点を取り入れたプランを作成できるよう務めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに沿って日々の個別記録を記入している。日頃から職員間で意見交換をしながらケアを実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人のADLや意向に合わせて訪問美容などのサービスを取り入れたり、機能訓練を取り入れて支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>篠笛の演奏会で楽しんでいただいたり、講師を招いての体操教室などを開催している。ボランティアの方に来所していただき、入居者様がホームで楽しく過ごしていただけるよう勤めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居説明時にかかりつけ医を含め、受診についてどうするか相談をしている。 入居後は体調の変化に応じて臨機応変に対応している。変化があった際にはご家族にも連絡し、早めの受診を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日バイタル測定を行い、体調不良が無いか確認し、様子がおかしい場合などは看護職員に報告相談している。協力医療機関の外来とも連携を行い、適切に受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはホームでの生活状況について書面で病院へ伝えている。協力医療機関の外来や相談員との情報交換は随時行っている。退院前には入院先の病院から連絡をもらい、受け入れ態勢を整えている。また、退院後の訪問指導も受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した時や終末期には医師が状態説明を行い、当事業所からも対応可能な処置などについて説明。同意を得たうえで状態の変化に応じて医療機関と情報共有を行いながら支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、職員間で情報を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に1回災害を想定した訓練を入居者様も参加して行い、内容の検証をしている。法人として災害時の協定を地域と結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別性を重視し、自由に生活して頂き、自室におられる方には定期的に訪室して見守りや声かけをしている。排泄時の介助については声かけの声の大きさに気を付ける等、プライバシーを意識した介護を心掛けている。敬意を持って接するよう、職員同士が声を掛け合って意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が自己決定できるよう、その方の状態に合わせた声かけをするよう努めている。状態に応じて「はい」「いいえ」で答えられるようなわかりやすい声かけをしている。誕生日の時には希望の食事や出かけた場所を伺ったりし、できる限り思いに沿えるようにしている。自己決定が難しい方については、生活歴や過ごしてこられた環境などから推測し、できる限り意向に沿った支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や表情、様子を見ながら希望に添えるよう声かけをするようにしている。無理なく本人のペースに沿って支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着る服を選んでいただいたり、訪問理美容をお願いしており、パーマや毛染めなども楽しんでいただけるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事はホームで手作りしており、四季折々の食材を取り入れるよう努めている。ホームで取れた野菜や近隣の方からいただいた野菜を入居者様と一緒に下ごしらえして調理をしたり、皆さんに食べたいものを聞いてメニューを決めることもある。配膳や下膳、机拭き等もしていただいている。誕生日には希望のメニューを伺い、提供している。四季折々の行事の際にはそれに合わせて行事食を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様の食事は毎食記録をしており、3食の時に加えて10時、15時にはお茶やコーヒー等を提供。様子を見ながら適宜水分の提供を行っている。 食事のメニューは栄養バランスを考えて毎週考えており、個人に合わせた形態で提供している。 入居者様の状態によって、協力医療機関の管理栄養士に相談して食事の提供を行ったりもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをし、口腔ケアを実施している。自分で歯を磨くことが難しい方に対しては、職員が仕上げなどを行っている。定期的に歯科医師が来所して、口腔ケアの指示や指導を職員に対して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員が入居者の排泄パターンを記録している。食事前後や個人の排泄パターンによって声かけを行い、トイレ誘導を行っている。夜間は紙オムツを使用される方についても日中は出来る限りトイレへ行っていただき、排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者様の身体の状態に応じて水分を積極的に摂っていただくよう働きかけたり、便秘改善のため牛乳や食物繊維が多く含まれているものを食べていただいている。また、体操や運動などで腸の動きを活発化し、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の頻度はひとりひとりの生活ペースに合わせて提供しており、拒否のある方には無理強いせず別の日におすすめしている。シャワーチェアなどを使用し、その方に合ったスタイルで無理なく入浴いただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ひとりひとりの様子や生活のペースにより昼寝が必要な方には休んでいただけるよう声かけをしている。良質な睡眠をとっていただけるよう、室温や照明、衣類などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個人の薬表を作成し、目的、副作用、用法などすぐに確認できる場所に置いて把握している。服薬後は歩行状態、排尿の有無、睡眠状態の変化などを記録し、それを受診時に医師に伝えるなどしている。居宅療養管理指導で薬剤師による管理を実施しており、適切な薬の管理ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人やご家族にこれまでの生活歴や趣味、好みなどを聞いて、それに基づいて職員が関わるようにしている。日常的に洗濯ものたたみやお膳拭き、掃除などの役割を持っていただいたり、塗り絵や編み物など、それぞれの方の趣味や好きなことをしていただき、日々楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候が良い時にはテラスに出たりして日光浴や外気浴をしていただいたり、外でお茶を飲んでいただいたりしている。また、植えている野菜や花の世話をしていただいたり、職員と散歩にも出かけたりしている。ご家族が来られた際には外出の働きかけをしている。当施設でもドライブや外食などを企画し、楽しんでいただけるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は現金を所持されている方はおられない。希望される方がいれば持っていただき、買い物などの際には支援させていただく。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様やご家族より希望があれば電話や手紙の取次ぎを行っている。また、個人で携帯電話を持っている方もおられ、ご家族などと連絡を取り合っている。手紙を書かれる方は現在おられないが届く方はおられ、届くの楽しみにされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日洗面台や部屋を掃除し、各部屋の室温にも気を配って空調の調整をするなどし、快適に過ごしていただけるように努めている。玄関やリビング、居室に入居者様や職員が作成した作品を飾ったりし、季節を感じていただいたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビ、新聞や雑誌などを置いており、入居者様それぞれが各々時間を過ごしていただけるようにしている。一つのテーブルにたくさんの方に座っていただき、交流を持てるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には自宅で使っていた家具を置いたり、写真を飾っていたり、なじみの物を置いたりして、なるべく自宅に近づけるようにしている。ご家族の写真を置かれている方もおり、それを見ながら話をしたりもしている。職員も一緒に部屋の整理整頓をして、快適に過ごしていただけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置して転倒予防とともに移動しやすい環境づくりをしている。 入居者様の残存機能を把握して大切に、無理のない範囲でできることはご自身でやっていただいたり、できないところは遠慮なく声をかけてもらい職員と一緒にしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮内温泉ひまわり

作成日 令和 7 年12 月 12 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との繋がりを深めたい	地域の方にホームでの行事に参加して頂き地域の行事にも参加する	行事がある時はお声がけをして参加出来るような行事を教えてください	12ヵ月
2	13	来年度より外国人技能実習生の受け入れが予定されている	職員間の相互理解、信頼関係の構築	職員全員で気を付ける事や不安に思う事等を話し合い上司にも相談し不安を解消する	12ヵ月
3	49	職員不足もあり外出支援が出来ていない	入居者の誕生日にご家族にも協力していただき外出ができる	お誕生日が近くなったらご家族とお祝いの時間が作れるよう外出等の声掛けをする	12ヵ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。